令和7年度 東陵中学校教職員 働き方改革アクションプラン

～教職員のゆとりと笑顔が生徒の成長と笑顔につながる～

東陵中学校では、「北上市教職員働き方改革プラン(R7~9年度版)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

[定量的現状]

◆ 「北上市教職員働き方改革プラン(R7~9年度版)」目標達成状況について
「時間外在校等時間(週休日等の部活動従事時間を含む)が月45時間超の者を前年度実績より減少させる。」

・R7年度目標:5人(R6年度:10人)

「時間外在校等時間が月80時間以上の者をゼロとする。」

・R7年度目標:0人(R6年度:2人)

[定性的現状]

○ 教職員の意識

・「時間外在校時間月45時間以内をめざす」が全教職員に徹底されている。
・時間外勤務している教職員が複数名いたが、一時的なものが多かった。

○ 管理職のマネジメント

・新たな業務が発生した際、スクラップ&ビルドの視点を持って業務見直し等の対応を行っている。

2 目標・目指す姿

<R7年度目標>

○ 北上市教職員働き方改革プラン(R7~9年度版)」に掲げるR7年度の目標を達成します。

○ 本校に勤務する先生方の勤務時間に対する意識を向上します。

<目指す姿>

- ・生徒への質の高い教育を持続的に提供し得る観点から、働き方の見直しが図られている。
- ・業務改善について、教員から積極的に提案がなされている。
- ・働き方改革に係る課題について、学校全体で共有し、その解決を図る場が定期的に設定されている。
- ・管理職が日頃から、教職員に対し勤務状況の現状確認と声かけを行っている。
- ・教職員が、ゆとりをもって生徒に接する時間を十分に確保できている。
- ・教職員がいきいきとやりがいをもって、生徒に向き合うことができている。

3 (2を達成していくための) 具体的取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・働き方改革プランの勤務時間を守る取組を確実に実施し、教職員の健康を確保します。
- ・校務分掌等の分担のアンバランスについて検討・改善し、一部の職員が過度な負担を感じないように取り組みます。
- ・管理職が、勤務時間をできるだけ守るよう積極的に声掛けをします。
- ・月の途中で月の時間外在校等時間が45時間超となった教職員に対して、当該時間を知らせるとともに、健康確保の観点から、退庁時刻を守ることや年次休暇の奨励等を勧めます。
- ・健康相談事業等、職員の状況に応じ、共済保健事業についての活用を促進します。

○ 学校における業務改善の推進

- ・全体の業務平準化に向け、積極的に担当の分担等の見直しを検討します。
- ・管理職が、改善について積極的に指摘・提案します。
- ・部活動の顧問や分掌等の担当を、できるだけ複数配置にすることにより、業務の効率化、負担軽減を図ります。
- ・定期的に、学校における働き方の取組状況を振り返る場を設定しています。(安全衛生委員会等)
- ・行事等については、安易にコロナ禍前に戻すことなく、目的達成のために必要な観点から業務の見直しを進めます。
- ・保護者への連絡は、文書でなくメールを活用します。
- ・会議は時間内に終えるよう焦点化して行います。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・職員が関係する外部団体の業務について、適正化を図るよう必要に応じて関係団体との協議を進めます。(中体連、中文連、研究団体等)
- ・地域行事等への生徒の参加については、生徒の負担等を説明し、地域の理解・協力を得て対応します。
- ・教職員が引率する地域行事等について、学校の実情を踏まえて精選等を行います。
- ・働き方改革に向けた取組について、保護者の方にも理解していただけるよう折をみて情報発信に努めます。
- ・休日等、学校以外での部活動については、父母会等学校外の協力をいただきながら進めます。

令和7年4月1日 東陵中学校長 中村 匡

(参考)「北上市教職員働き方改革プラン(R7~9年度版)」(抜粋)

【策定趣旨】

○ 働き方改革の実現により、未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの目標】市内小中学校の教員の時間外在校等時間の縮減

(1) 時間外在校等時間(週休日等の部活動従事時間を含む)が月45時間超の者を前年度実績より減少させる。

〔・令和6年度実績(6月調査) 228人 割合 42.0%〕

(2) 時間外在校等時間が月80時間以上の者をゼロとする。

〔・令和6年度実績(6月調査) 27人 割合 5.0%〕